



理工学図書館のご紹介



こうちゃん

大阪大学理工学図書館についてご紹介します！



■大阪大学附属図書館について

- 大阪大学には3つのキャンパスがあり、そこに4つの図書館があります。
総合図書館（豊中）、生命科学図書館（吹田）、理工学図書館（吹田）、外国学図書館（箕面）
- 1年生は豊中キャンパスで講義があるので総合図書館を利用します。工学部生は2年生から吹田キャンパスで講義を受けるため、理工学図書館をよく使います。
- 所蔵している図書は約390万冊、雑誌は約73,800タイトルです。（2020年時点）
- 約17,000タイトルの電子ジャーナルや約31,350タイトルの電子ブックも利用できます。

■理工学図書館について

- 理工学図書館の主な利用者は、工学部2年生以上の学部学生、工学研究科の大学院生、教職員です。
- 所蔵資料は工学分野のものがほとんどで、図書は約33万冊、雑誌は約7,500タイトルあります。
- 資料の閲覧・貸出しだけでなく、みんなで議論できるスペースもあります。

図書館でできるのは資料を読む・借りることだけではありません！



りっちゃん

■理工学図書館の施設案内

- 通常の座席に加えて、次のような施設があります。
- ラーニング・コモンズ：相談しながら学習できる、主体的な学びのためのスペースです。
プレゼンテーションに便利な機器も多数取り揃えているため、授業やゼミにも活用されています。
理工学図書館には2つのエリアがあります。
 - ・西館1階 TPSCo Commons
 - ・東館1階 ラーニング・コモンズ
- そのほかにも便利な施設があります。
 - ・西館2階 グループ学習室（12名まで）
 - ・西館2階 会議室・研修室（24名まで）
 - ・西館3階 図書館ホール（100名まで）
 - ・東館3階 研究個室

■西館1階 TPSCo Commons

グループ学習エリアとパソコンエリアがあります。



◆グループ学習エリア

いすやテーブルは自由に移動できます。



◆パソコンエリア

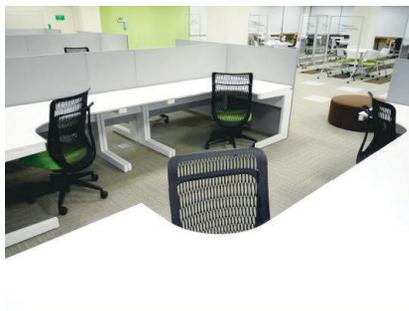
阪大の学生は自由に使えます。



このほかに新聞・雑誌を
読むことができるラウンジ
や、資料展示コーナーも
あります。

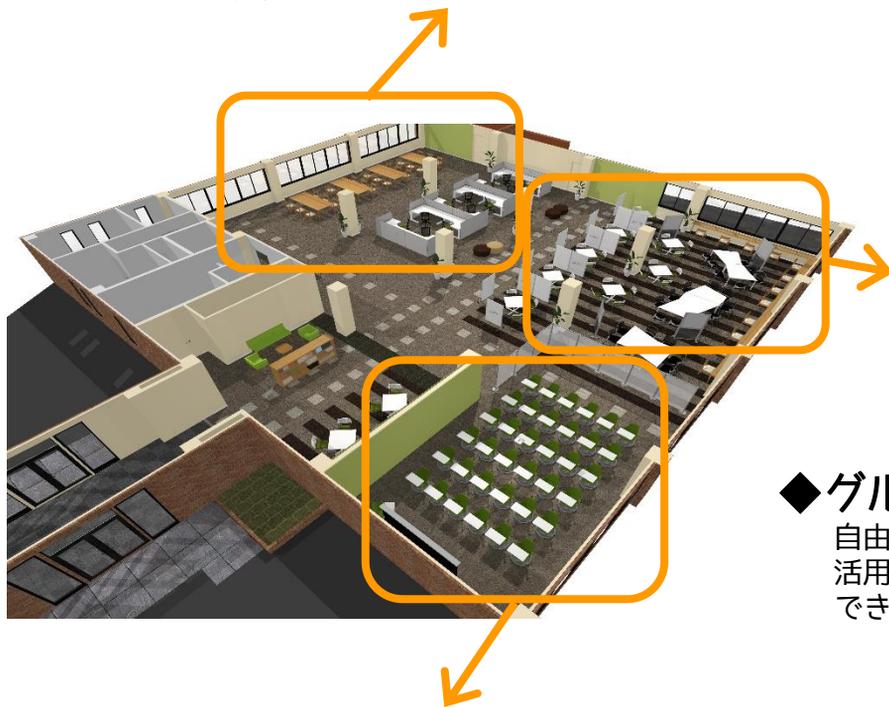
■東館1階 ラーニング・commons

自習エリア、グループ学習エリア、プレゼンテーションエリアに分かれています。壁一面のホワイトボード、タッチ型の大型ディスプレイなど設備も充実しています。空間デザインについてはキャンパスデザイン室の先生方にご協力いただきました。



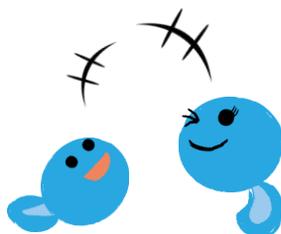
◆自習エリア

集中して勉強したい方向けのエリアです。



◆グループ学習エリア

自由に移動できる机やホワイトボードを活用して、勉強会やディスカッションができます。



◆プレゼンテーションエリア

プロジェクター、スクリーン、マイクなどを備えたプレゼン用の空間です。

壁の一部はホワイトボードになっており、書き込むことができます。

■西館2階 グループ学習室

3名以上で利用できるグループ学習やディスカッション用の部屋です。



■西館2階 会議室・研修室

6名以上で利用できるグループ学習やディスカッション用の部屋です。ゼミにも利用されています。



■西館3階 図書館ホール

講義やセミナー等の活動に利用できます。100名収容できます。



■東館3階 研究個室

1名用の個室です。静かに勉強したい時に利用できます。



学生の学習をサポートするラーニング・サポーター（LS）もいます。「高校生に読んでほしい8冊」もぜひチェックしてください！

